

# 外国人女性の妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援 外国人が安心して受診できる医療環境を目指す

平成31年地域政策研究センター 地域協働研究【ステージI】採択課題

課題名：「外国人の医療環境等整備へ向けた取り組みについて」

研究代表者：盛岡短期大学部 教授 石橋敬太郎

研究チーム員：吉原秋、熊本早苗（盛岡短期大学部）、細越久美子（社会福祉学部）

アンガホッフア司寿子、木地谷祐子（看護学部）、及川勝彦、後藤幸生（北上市まちづくり部）

技術キーワード：多文化共生、外国人向け医療環境整備、出産、子どもの受診、医療通訳

## 研究の概要（背景・目的等）

北上では、食品製造会社などで働く若い世代の外国出身者が増加しつつある。企業誘致が進む同市において、今後も労働を目的とした若い外国人が増えるものと思われる。本研究では、北上市に居住する外国人女性の妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援に向けて、同市の母子保健サービスの現状と課題を把握することを目的としている。あわせて、北上市で設置が決定された「子育て包括支援センター」での外国人母子を対象としたサービス事業の可能性について検討を試みた。

「子育て包括支援センター」での外国人母子を対象としたサービス事業について

対応する外国人の件数が少ないことから、外国人母子に特化した事業は、現実的に難しい。むしろ、外国人と日本人とを区別するのではなく、日本人母子の事業に外国人が参加することが望ましいとの意見が対象者に共通してみられた。そのためには、外国人にとっても気楽に活用できる場となるよう工夫が必要であるとの意見が出された。

## 研究の内容（方法・経過等）

北上市に居住する妊産婦の支援にあっている保健師4名を対象として、2019年8月22日に外国人妊産婦への対応経験や、そこでの課題や要望等についてインタビュー調査を実施した。

## 他地域の先進的取り組みの事例

厚生労働省は、全国の自治体に2020年度末までの子育て世代包括支援センターの設置を義務付けるなど、「妊娠期から子育てまでの切れ目のない支援」のための母子保健サービスの強化に力を入れている。北上市に合った実現可能な母子保健サービスを検討する上で、先進的な取り組みを実施している他地域の取り組みを紹介する。

## これまで得られた研究の成果

### A. 外国人母子保健に関する研修などの機会

外国人母子を対象として特化した母子保健に関する研究の機会はほとんどない。

### イ. 日本語や日本の文化に不自由な外国人への支援として実施している工夫

保健師が柔軟に外国人母子に対応しているが、その対応の大部分は、保健師個人の工夫・努力に任されていた。具体的には、家庭訪問を実施してコミュニケーションをとる、予防接種など医療に関することは、事前に医療機関に連絡をするなど、きめ細かな工夫がなされていた。

### ウ. 日本語や日本の文化に不自由な外国人への支援として今後求められると思われるニーズ

無料で利用できる通訳・翻訳サービスのニーズはすべての対象者に共通してみられた。既存の通訳サービスは、有料であるため、利用するのにハードルが高い。妊婦が通訳料を支払うのは難しいため、行政による負担が望ましい。

### エ. 通訳・翻訳者を同伴しての支援活動について

検診の結果や保健指導は正確に伝える必要があることから、通訳・翻訳者を同伴しての活動の必要性は、すべての対象者に共通して認識されていた。なお、ニュアンスの違いや異性の通訳者の場合、外国人母子の意見や気持ちが伝わらないこともある。

## 他地域の先進的な取り組み

活動団体	取り組み内容
兵庫県明石市	「おなかの赤ちゃん100%サポート」を標語に掲げ、妊婦が外国人の場合、通訳者を同行した保健師による家庭訪問を行い、中長期的にわたるリスクの把握に努めている。
大阪府 NPO 法人 Charm	医療通訳紹介、研修事業の実施と出産・育児のための多言語パンフレットの作成を行っている。

## 今後の具体的な展開

1. 北上市の「子育て包括支援センター」には、通訳・翻訳や相談対応できる窓口（ワンストップサービス）があることが望まれる。
2. 相談の内容によって、医療機関、福祉相談機関や国際交流協会につなぐ役割が本センターに求められる。

(謝辞) 調査実施にあたり、調査研究にご協力してくださった北上市健康増進課の皆様にご心から感謝申し上げます。